武蔵野東教育センター会報
Newsletter of Musashino Higashi Center for Education and Research

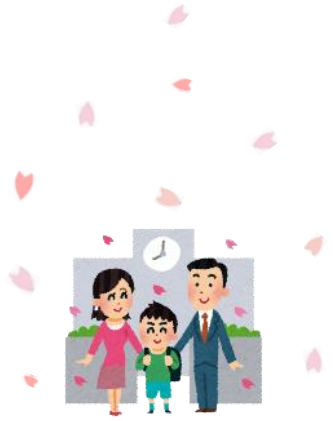
“Heart to Heart”

心から心へ　わかちあう　あたたかさ

第13巻 第3号 (No.40)
発行日 2019年3月1日

目次:

2018年度を振り返る	1
療育プログラムの様子	2 3
コラム：自閉と学校教育	4
教育センターからのご案内	4



2018年度を振り返る

武蔵野東教育センター所長　計野浩一郎

2018年度もまもなく終わります。子どもたちは、この一年いろいろなことに取り組み、一人一人が個性豊かに成長できたのではないかと思います。この一年を紙面が許す範囲で振り返りたいと思います。

発達に偏りのある方の多くは、身につけている社会性が他の方々とは違うことが多々あります。それも一つの個性であり、認知特性の違いでもあるわけで、多様性が認められてしかるべきことであると思います。しかし、日本においてあまり普通ではないことや他人と違うことをすると、数多くのネガティブな反応が返ってくるということは、最近の事件やいじめ等のニュースなどを見れば明らかだと思います。同じように能力をつけるよう促され、同じように競争させられる。けれども、本来人間は生物としてバラバラで多様な存在であるはずです。

場の雰囲気が読めずに一方的に自分の興味のことだけを話してしまう。相手と調和することができなかったり、言葉を字義通りに解釈し会話が成立せず相手を戸惑わせたり、言葉をネガティブに受け止めて自己肯定感を下げてしまったりしがちです。人との関係を保ちにくいことは、生きづらさにつながり本来身につけておかなければいけないことを学ぶチャンスを逸してしまいます。こうした子どもたちの認知特性を教育センターでは所員全員で確認し、個に応じた教育的支援を積み重ねてきた一年でした。

また、今年度は二つのことを重点指導として取り組んできました。

一つ目は、「身体運動や音楽活動（特にリズム運動）」です。最近の研究結果からこの活動をすることで、脳の海馬のニューロンが生まれる数が飛躍的に増加することがわかってきました。新たに生まれたニューロンに刺激を与えると、脳の実行機能や言語能力を向上し、子ども同士のコミュニケーションが高まるということです。保護者の方からは「思いっきり体を動かし頭で考えながら動くことで、意欲が増して表情も柔らかくなり、人との関係がよくなってきています。」などの感想をいただいています。

二つ目の「情報端末を活用した教育の推進」では、個々の学習スタイルに応じて、これまでも情報端末を取り入れることで一定の成果を挙げてきました。本年度は、その機器をより高次な情報の提示手段として、集団指導や個別指導の中で活用し、情報活用能力の育成だけでなく、教科の学習目標が達成できるように取り組みました。保護者の方からは「機器を使うことで集中力が増し、学習への抵抗感がなくなりました。苦手な課題にも進んで取り組めるようになりました。」などの感想が寄せられています。

これからも子どもたちが「こうすればいいんだ」「次もやってみよう」と前向きに肯定的に思えるよう指導していきたいと思います。来年以降も運動や情報機器を活用し、個性を発揮できるように支援を継続していきます。保護者の方々のご協力・ご支援を引き続きよろしくお願いします。

療育プログラムの様子　【各教室・言語プログラム】

リトムーブ教室　ジョイントマットの上を両足ジャンプで移動しながら、マットの色や足型の向きを見極めて体を静止させたり捻ったりする活動を楽しみました。両足ジャンプの運動に、位置や向き、リズムなどの条件が加わると、目、耳、体の機能をフル稼働させなければなりません。体の巧緻性や空間認知など、たくさんの機能活性が期待できると思います。この活動を通して、個々の子どもの課題がよりはっきりと見えてきました。（髙橋）

リズムに合わせてジャンプ！

幼児絵画造形教室　この教室でいっしょに過ごしてきた友だちとの記念写真を飾る、写真立てを作りました。紙粘土で土台を作り、ボタン、ビーズ、小さなタイルを指先で丁寧に埋め込むと、キラキラで個性豊かな楽しい作品ができあがりました。全員が黙々と作業する姿に、この一年の成長を感じています。（本田）

そーっとね

幼児体育教室　幼児は、バランスボードに挑戦しています。この器具は、天板の上で足を左右に踏み込んでムーンウォークのような動作を楽しむ器具ですが、平衡感覚や腰の回旋運動、体幹強化といった様々な運動効果が得られます。今回は、安全性と活動効率を上げるため、椅子を支えにした練習方法を工夫してみました。この方法により、課題の習得率が高まってきています。（鈴木ゆ）

バランスボード

SST教室　1･2年生は、手持ちのストローを友だちと交換して同色にそろえる『ストローじゃんけん』の活動をしています。友だちに声をかけて関わること、自分のほしい色を友だちに言葉できちんと伝えることなどが活動の目的です。子ども達は、1年間で学んできたスキルと一緒に過ごして友だちとの関係を活かしながら、楽しんで活動に取り組んでいます。（猪野）

ストローじゃんけん

ダンス教室　発表会を無事に終えました。タオル体操は全員で気持ちをひとつにして頑張りました。演目の二つ目は「笑顔」がテーマの楽しい曲。練習の成果を発揮して、軽快に元気よく踊ることができました。何より、友だち同士で笑顔で披露できたことが一番の収穫です。衣装を着て髪を整え、日常では得られにくい特別な経験となりました。（新堂）

会場全体が笑顔になりました

言語プログラム　読み書きの基礎の一つとして、音への意識を高めることを大切にしています。例えばその練習として、「りんご」を「ごんり」とさかさまに言わせる、真ん中の音は何であるかに答えさせる、また、文字が書かれたチップを並べて単語を作ることも行います。これらを通じて単語を正しく読むことや、エレベーターを「エベレーター」というなど音の順番を誤って話すということが少なくなってきます。難しい課題の一つではありますが、子どもたちは根気強く、そして楽しそうに学んでいます。（浜野）

並べ替えて言葉をつくろう

体育教室　どの運動にも共通して言えることですが、体の平衡を保ちながら体重移動を行えることがパフォーマンスに大きく関係しています。インラインスケートでは、前後左右の体重移動が滑走やブレーキの精度に関ってきますので、基礎練習では体を大きく動かして体重移動が安定してできるように工夫しています。（鈴木ゆ）

腰を下げて！

コンピュータ教室　一年間のまとめとして、新聞を作っています。学校行事の思い出をまとめたり、自分の好きなゲームやキャラクターを紹介する新聞を作ったりしています。コンピュータ室には昨年度以前に作られた新聞が掲示してあるので、新聞作りをずっと楽しみにしていた子も多いようです。今まで練習してきたスキルを活用して、読んで楽しい新聞を目指して頑張っています。（臼井）

どんな新聞ができるかな？

【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

おすまし顔のおひなさま

幼児 今月は、ひなまつりの作品づくりを楽しみました。紙コップに可愛い着物のおひなさまは年少さん、年中さんは折り紙で、クレヨンと絵の具は年長さんというように、それぞれでちがう素材を使っての製作です。どれもかわいらしいのはもちろんですが、笑顔さん、おすましさん、イケメン風と個性豊かなおひなさまになりました。子どもたちが待ちに待った春ももうすぐです。
（本田）

「♪1円が5まいで 5円！」

１年生 算数では、お金の学習を行っています。子どもたちは、教育センターで作った「お金の学習」ビデオを見ながら、硬貨の名前や数え方を復唱し楽しく学習しています。また、指定された額の模擬硬貨を財布から出す練習も行いました。3月には教室で買いものの練習を行う予定です。子どもたちは今から楽しみにしています。（宮下）

文を正しく書こう

２年生 国語では、『文作り』の学習をしています。文章の内容を詳しくする、「どんな」、「どうやって」といった修飾語について学ぶ課題では、「僕の家はかっこいい車だよ」、「赤くて大きくて速い車なんてどう？」など、たくさんのユニークな解答がありました。こうした子どもたちの興味関心を参考にしながら、今後も楽しく文の作り方を学んでいきます。（猪野）

何グラムかな？

３年生 算数の時間に『重さ』について学習しました。単位の読み方、重さの比較、kgからgへの単位換算の仕方を学びました。また、体重計で自分の体重を量ったり、粘土の重さを100gちょうどになるように調整したりして、重さがイメージしやすくなるような活動を行いました。子どもたちは、「100gってこのくらいなんだ！」などと驚いていました。（吉田）

「1,2の…投げる！」

４年生 体育の時間に投球練習を行いました。ボールを持った手を頭の後ろから振りかぶって投げる、オーバーハンドスローの練習です。体を投球方向に沿って横向きにし、足を開いて体を前後に揺らしながら「いーち・にーの・なげる！」の合図で投球させると、要領をつかめる子どもが多く見られました。ボールを当てる的を設置することや、投げて欲しい位置に担当者が立って声をかけることで目標が明確になり、よりはりきってボールを投げることができました。（久留）

リズムに注意して

５年生 音楽の授業で「音積み木」（鉄琴）を行っています。12月には「ひいらぎかざろう」の演奏を行いました。1月、2月は「冬の歌」を演奏しました。鍵盤を1音ずつ取り外すことができるため、1人2音から3音を担当し、全員で協力して演奏することができます。もちろん1人で最後まで演奏することもできるので、グループの中でミニ発表を楽しみました。（藤本）

単位換算器を使って

６年生 算数の「量の単位」の学習で、長さ、重さ、水のかさ、面積、体積などの単位の関係や、単位換算の仕方を学んでいます。図工の時間に『単位換算器』を作成し、解きにくかった問題はこれを活用して答えを求めています。真ん中の帯をスライドさせるだけなので、扱いやすく子どもたちも楽しみながら学習に取り組むことができています。（宮川）

1分以内に読もう

中学生 国語の授業で「話し方はどうかな」という単元を学びました。天気予報や野球の実況中継でアナウンサーが話した内容を文字におこして原稿にし、指定された時間内で読んだり、強調したい言葉をゆっくり読んで抑揚をつけたりする練習をしています。相手が聞きやすい速さで明瞭に話せるよう練習を続けていきます。（宮川）

正しく払えるかな？

ラーニングプログラム お金の学習を色々な方法で行っています。プリントを使って、硬貨の名称の確認や、複数の硬貨の合計金額を求める学習をしています。また、より実践的な学習として、指定された金額をお財布の中から出す練習もしています。スムーズにお金を払うには、手先の器用さや硬貨の側面から種類を判別することも必要になるので、繰り返し練習をしています。（臼井）

コラム　障害児教育について（3）

自閉と学校教育

谷口　清（文教大学教授）

自閉の子たちの困難はこだわりとコミュニケーションの取りにくさです。私は「適応」というのは周りとの調和と理解していますが、自閉の子たちは周りの流れを読むことが苦手なため、どうしてもその流れから「外れ」てしまいます。そうすると周りは本人を何とか流れに乗せようと「努力」することになります。その努力がどこに向かうかによってさまざまな結果がもたらされてきました。

当初周りに合わせることができないのは本人の問題と理解し、本人を変えようとしてきました。こだわりや偏った興味・関心を誤学習とみた応用行動分析などのアプローチはその一つかもしれません。本人の「気持ち」を顧慮せず矯正を図った結果、強度行動障害などの副反応が現れることもありました。

2001年WHOの国際生活機能分類（ICF）以降、調和・不調和は本人と周りとの相互作用すなわち「関係」として理解されますので、今は本人のみに原因(責任)が求められることは少なくなっています。車いす生活による移動障害を建物や公共交通機関の構造の問題とみて、バリアフリー化、あるいはユニバーサルデザインによって克服するようなものです。自閉症にみられるこだわりや興味・関心の偏りも、自傷・他害など危険を伴うものでない限り受け入れて共存・共生をはかることになりつつあります。努力は本人を変えるよりも、なぜそうするかを理解し受け入れるために周りが変わることに向けられています。環境の構造化を考えたショプラーらによるTEACCHプログラムもその一つでしょう。

私は北原キヨ先生の生活療法を直接学ぶ機会はありませんでしたが、先生が書かれたものを見ると共に生活することを通して子どもの生活を深く知ること、そして発達を促進する望ましい環境を作ることを強調されています。それは自閉の子たちの内面を受け止めてそれに丸ごと関わる、すなわち自分自身の振る舞いが自閉の子の行動にどう影響するかを感じ取ることを通して「関係」のありように気づき、「子どもの内部の力を動かし成長させていく」ことと理解します。その際健康な子どもからの多くの刺激、たくましい力による働きかけが基礎になると強調されています。今度授業参観の機会をいただきましたので、授業実践にそれがどう生きているか、拝見させていただくことを楽しみにしています。

学校は、教育効率という観点からも集団行動、集団の規律が一般社会以上に重視されています。もともと日本の社会は「和をもって尊しとなす」という言葉に象徴されるように、暗黙裡の同調を強いることに無自覚な文化を持っているようです。学校は子どもたちの発達段階から見ても、同調圧力や排除として、それらが極端に表れやすい側面を持っています。いじめ・不登校もそのような環境のもとで起こりやすくなっています。学校はそもそも自閉の子たちにはなじみにくい特性を持っているのかもしれません。教育相談では友達関係に困難を抱えてしまう自閉の子に出会うことは少なくありません。

武蔵野東の子どもたちは幼稚園から自閉の子たちと生活を共にすることにより自閉の子たちの行動特徴をあるがままに理解し、自然に寄り添う感覚が育っているようです。自閉の子たちに無理なこと、嫌なことが素朴にわかっていますので、いい意味でほっておく、それが相互にストレスフリーな関係になっているのでしょう。ICFに30年以上も先行して実践されてきた混合教育、インクルージョンの素晴らしいところかと思います。

このコラムは4回シリーズでお届けしています。

2019年度セミナーのご案内

2019年度の保護者・支援者向けセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせします。
4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

第1回　2019年　6月27日（木）10時～12時
第2回　2019年　11月28日（木）10時～12時
第3回　2020年　2月21日（金）10時～12時

2019年2月　大伴潔先生
「小学生のことばの力を育てるには」

学校法人　武蔵野東学園
武蔵野東教育センター
〒180-0012　武蔵野市緑町2-1-10
電話 0422-53-8585　FAX 0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

2019年度療育プログラムについて

2019年度の療育プログラムに多くの方に応募いただきありがとうございました。プログラムによってはまだ若干空きがあるものもございます。空きがないプログラムについてはキャンセル待ち登録もできますので、ご遠慮なくお問い合わせください。